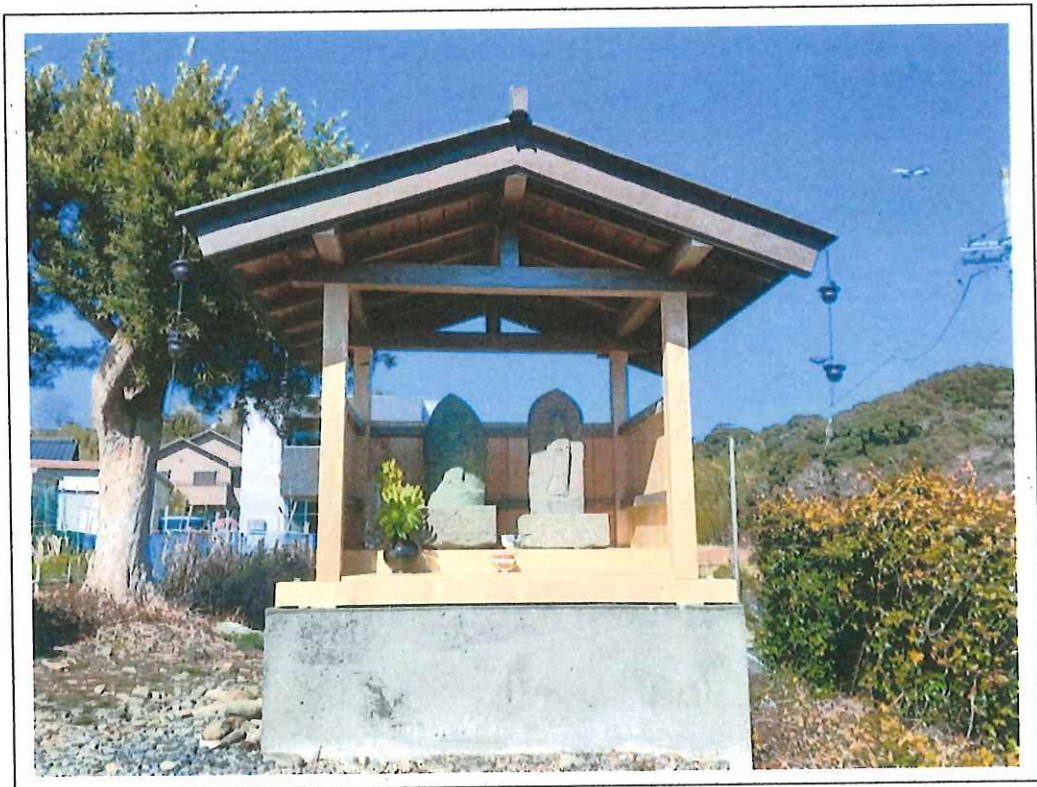


坂口谷三十三所  
第三十三番 十一面觀世音

坂部前玉戸崎



令和7年2月吉日 改修完成

## 序

### ” 戸崎の観音さ～ん”



その昔、奈良時代の須恵器に「前玉」の墨書が発見されたという。  
ある書物に出会った。

私たちが住む、この前玉の地に、当時から人々の暮らしが始まっていたのか…。  
戸崎の小高い丘に山野が広がる丘陵地一帯に散在し、栄えていたのだろうか…。  
そんな歴史ロマンが漂ってくる。

時代が変遷する中で、全国各地に観音信仰などが普及し、大衆化しました。  
地元にも古くから伝わる戸崎の「遠州坂口谷三十三番札所の第三十三番 十一面観  
世音」もその一つです。

この度その御堂が、長い歳月と風雨等により傷み壊れた為、地域の協力を得  
ながら土台の床板、周囲の壁板等を補修する事に成りました。

この御堂は、一緒に安置されている地藏尊と共に、地域を守る観音菩薩像を  
祀り、春秋のお彼岸が来ると、各札所では地域の人達に依る念仏を唱えたり、  
茶菓などの接待も有って、昭和の初め頃までは近郊の吉田、川崎、相良からも  
巡拝する老若男女が訪れていました。また、その一行の中には御詠歌を詠って  
歩く巡拝者も居たと、地域の古老が教えてくれました。

今回の御堂改修を機会に、こうした地域の観音信仰、その由緒ある歴史と文  
化を大切に守りながら、次世代へ引き継いで行けたらと思います。そして、こ  
の地域の発展と人々の暮らし、生活安定に寄与出来ればと願うばかりです。

なお、この資料作成に当たっては、坂部第3町内会の伊故海正道様に貴重な  
資料提供を頂きました。誠にありがとうございました。

(坂部第2町内会1班 T. H 記)

令和7年2月吉日

(工事中の写真)



棟梁：田中 潤  
班長：池ヶ谷喜久夫  
役員：橋本辰夫 佐々木亨 良知菊夫  
協力：後藤千昌

# 第三十三番十一面觀世音

## 関連資料





三十三番札所

坂口谷三十三番観音の巡礼歌

第卅三番

おしなべてほとけ  
 あらわとときととき  
 きかべまさらん  
 なむかんせあん

おしなべて仏新たと聞く戸崎坂部守らん南無観世音

昭和57(1982)年関辰雄著より



記

一、先年村僧西國三十三所ノ靈場ヲ  
順拜スルノ序ニ到ル所ニ砂石ヲ拾ヒ  
齋ヲ持チ来リテ之ヲ藏ル一既ニ五年  
ニ及リ然レモ是レヲ分賦スルニ由シナシ  
想モフ信心ノ同盟ヲ勸誘シ多クノ捨財  
ヲ請ヒ石以テ觀音ノ尊像ヲ彫刻シ  
坂口谷周圍凡ソ三里程ノ際ニ寺ヲ  
堂會或ハ各自所有ノ靈畔社邊又ハ  
山嶺ノ淨地ヲ占メコレヲ安置シ以テ

十二州中三十三所ノ砂石ヲ散布シ  
西國順礼ヲ遂ケルト欲メ果タシ得ル信男  
信女ヲシテ歩ミヲ運バシメバ十二州中各所  
ノ靈地ヲ順拜スルト同一利益ヲ得ルノ  
勝縁ヲ結ブモノナラント思想シ斯ク奉記  
シテ信心ノ同盟ヲ勸進スル一件ノ如シ  
明治二十一年九月 坂部村隨心寺寫

發起人 熊本義天  
同村賛助者 衣川幸平

坂口谷西國勸発同盟連名簿より

一、坂部村三十三番札所由緒

坂口谷 西國 勸発同盟連名簿

明治二十一年九月 坂部村隨心寺住 發起人 熊本義天

記

一、先年拙僧西國三十三所ノ靈場ヲ順拜スルノ序ニ到ル所ニ砂石ヲ拾ヒ齋ヲ持チ来リテ之ヲ藏ムルコト  
既ニ五年ニ及ベリ然レドモ是レヲ分賦スルニ由シナシ因テ想モフ觀音ノ尊像ヲ彫刻シ坂口谷周圍凡ソ三里程  
ノ際ニ寺院堂會或ハ各自所有ノ靈畔社邊又ハ山嶺ノ淨地ヲ占メコレヲ安置シ以テ十二州中三十三所ノ砂石ヲ  
散布シ西國順礼ヲ遂ゲント欲ス果タシ得サル信男信女ヲシテ歩ミヲ運バシメバ十二州中各所ノ靈地ヲ順拜ス  
ル上同一利益ヲ得ルノ勝縁ヲ結ブモノナラント思想シ斯ク發起シテ信心ノ同盟ヲ勸進スルコト件ノ如シ。

明治二十一年九月

坂部村隨心寺寫

發起人 熊本義天

同村賛助者 衣川幸平

外三十七名

## 郷土ふるさとの豆知識

### 『西国三十三所』

天明の大飢饉などもあって西国の観音霊場巡礼は、十世紀の頃に始められたと伝わる、中世の貴族階級の遊山などの巡礼にとどまる。次第に大衆の参加する巡礼にとかわり その観音信仰は全国的な広がりとなったという。

### 『坂口三十三番札』とは

外久保随心寺に保存されていた由緒書（別揚）によると、寺の熊本義天住職は西国の霊場を幾度となく廻り、各霊場から砂や小石などをあつめてきた。その砂石は坂口谷の寺や堂の境内、墓地や山の浄地を選び散らせ、その上に観音石像を安置した。およそ12キロを廻る者は、西国を巡拝すると同じ利益を得させようと、檀家の人々などと協力して、有志の賛助を得ながら明治22年初めに「坂口谷三十三所（別揚）」が成立した。

### 『第三十三番十一面観世音』とは

戸崎の札所は33番目で十一面観世音である。この十一面観世音とは頭に「11の顔」を持ち、様々な表情で、人々を苦しみから救う菩薩をいう。またその深い慈悲により衆生から一切の苦しみを抜き去る功德を施す菩薩であるとされる。

### 『ご利益（功德）』とは

十一面観世音には病氣治癒・無病息災・良縁・極楽浄土・災難の苦しみから救などの功德がある。

### 『前玉』とは

坂口谷中里の東部にあり、坂口谷川左岸の低段丘の上に集落がある。掛川誌稿に「さいたま」は「さきたま」の転化で、「前田間」の意という。（諸説あり）奈良時代の須恵器に「前玉」の墨書が発見されている。慶安三年（1650年）12月の前玉村名寄坪井付帳には、前玉村が廿一戸・卅六町一反五畝廿七歩とある。その後の掛川誌稿には七九戸348人とある。ちなみに前玉村はその後「二部落」となり、現在の行政地名である「第二町内会」となっている。また現在の一班的旧地名（呼称）は「戸崎から3番組」2班は「権現様から4番組」三班は「宮前から5番組」そして四班は「大門から6番組」という経緯がある。

### 『戸崎』とは

その昔、大井川の流れが大きく濁流し氾濫するなどして、戸崎の近くまで海水も流れこんできたと、古老に聞いたことがある。また「とさき」はつつ先の意味で前玉と吉田町山の腰との境に突出したところである。

（参考：榛原町教育委員会発行のふるさとシリーズ等）